

彫刻家 上床 利秋

真夏の雨の訪問者

最近の夏の雨は程々に降ることを忘れたようだ。梅雨明け宣言は終わっているはずなのに線状降水帯などという目に見えない天からの来客が凄まじい水を持ってくる。数日前の大雨でアトリエは池になった。



栗の森に遊ぶFRP製カバ彫刻は本当に浮いて泳いで位置がずれた。水路は決壊してアトリエ仕事場にも水が来た。椅子の下で履き替えていた靴は流されてお隣のジャングル入口で見つかった。水はそのまま時間が経てば乾いて依然と変わらないのだが、立てていた丸太に水が来た記念の跡が残った。

自然の驚異に私一人が抗ってもかなうはずもない。これ以上の開発など無用であるという事なのだろう。でも翌日美しい来客が訪れた。青緑色に輝く麗人の名はカラスアゲハ。

雨水タンクのそばの水を多く含んだ砂利に、アトリエで働く人間など警戒することも忘れて羽を広げていた。同じ個所を周回する習性を持つ蝶ではあるが花の蜜を吸っている瞬間など、集中するときは無防備になるのかもしれない。カメラを蝶に向けてすぐそばまで来ても飛び立つ心配がなかった。あるいは昨夜の大雨におびえて疲れ切っていたのだろうか、美しい羽根が痛んでいたのが悲しかった。

充分に水を飲みほした後、きれいに晴れ上がった青空に麗人は一気に飛んで消えていった。

2022年8月